

ひろしま自然保育認証制度



広島県健康福祉局安心保育推進課

広島県について①

恵まれた自然環境と都市機能が共存

- ◆ スキー場（県内 箇所）も。海水浴も。
- ◆ リンゴも。みかんも。



- ・面積 8,479.03平方km (全国10番目)
- ・人口 284.4万人 (全国12番目)

広島県について②

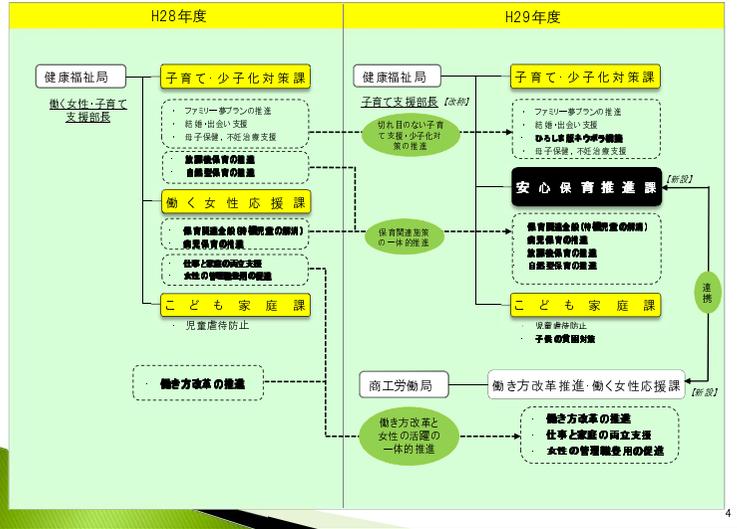
23市町（14市9町）← 平成15年2月までは86市町村

広島市の人口 1,194,507人

安芸太田町の人口 6,460人



ひろしま自然保育認証制度



ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

第1回検討会議（H29.4.18）の概要

【事務局案】事業の趣旨について

- ✓ 一定の基準に基づく県の認証制度を導入。
- ✓ 県内外にその取組を広く発信していくことを通じて、広島県内で行われている自然保育に対する関心や理解、信頼性の向上等を推進する。
- ✓ 広島県ブランドの一つである「都市と自然の近接性」を生かした魅力ある子育て環境について情報発信を行い、移住・定住を促進する。

委員からの意見（主なもの）

- 認証制度の目的が不明確。
- 認証の対象は施設なのか、各施設のカリキュラムを認証するのか。
- 認証に際しては、教育・保育の質の評価が必要
幼稚園教育要領、保育所保育指針、「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン（※）との整合性に留意すべき。

※「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランとは
子供が育つ環境に関わらず、県内すべての乳幼児に育みたい力の育成に向けた教育・保育が行われるよう、目指す姿を明確にし、本県の乳幼児期の教育・保育の基本的な考え方や具体的な施策をとりまとめた（平成29年3月）

9

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

第2回検討会議（H29.6.12）の概要

県内の自然体験活動団体（2団体）から活動状況を報告

【事務局案】事業の方向性について

- ①自然保育を行ういわゆる「特化型」団体の認証と、
- ②人材育成等の自然保育の推進に係る事業（認証を前提としない、いわゆる「一般型」）の2本立て

委員からの意見（主なもの）

- 事業の「期待される効果」について、子供の視点からの効果を丁寧に整理すべき。
- 「自然保育」という言葉は、「放任保育」と誤解される可能性がある。区別するため「しぜん保育」という表記はどうか。

10

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

第3回検討会議（H29.7.31）の概要

【事務局案】認証基準（素案）

- ✓ 先行する2県（鳥取県・長野県）を参考に認証基準（素案）作成
- ✓ 表記は「しぜん保育」
- ✓ 当面「特化型」のみ議論（「一般型」の議論は後回し）
- ✓ 事業による効果を、子供・保護者・各団体等に区分して整理

委員からの意見（主なもの）

- 認証基準は、県が「お墨付き」を与えるものであり、慎重に設定すべきであるが、一方で、実態に合わない基準も避けるべき。
- 安全確保のためには厳しい基準でもやむを得ない。野外の活動が前提であり、保育者の人数は認可園の基準より厳しい基準を求めることが必要ではないか。
- 幼保小連携について、自然保育ならではの文言を入れてはどうか。

11

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

第4回検討会議（H29.9.6）の概要

【事務局案】

認証基準の修正案

- ✓ 制度名を「ひろしま自然保育認証制度」とする（×「しぜん保育」）
- ✓ 当面、「特化型」のみ制度開始、「一般型」は年内に別途検討
認証のための手続き（案）
- ✓ 認証のための手認証にあたっては、学識経験者等から意見聴取
- ✓ 2年の更新制とし、認証後の報告は不要

委員からの意見（主なもの）

- 認証基準における自然保育の時間は、一般型との差別化を図るためにも「屋外における」という条件をつけてはどうか。
- 認証団体には、一定の事業報告は求めるべき。自らの活動を振り返り、PDCAを回すことにつながる。その場合、更新制度は不要。
- 認証制度ができた後、自然体験活動ができるフィールド等の情報を広く伝える取組など、メッセージの発信が大切。

12

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

4 検討会議後の対応

- 第4回検討会議における委員意見を反映させて、
認証制度実施要領の最終案を確定
- 補助制度創設(当初予算に計上済)について庁内調整
- 9月20日 認証制度案を知事協議
- 10月10日 知事定例記者会見にて認証制度開始を公表、
認証申請受付開始

13

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

5 検討会議における議論のポイント

- 先行する2県（長野県・鳥取県）からのアドバイス
- 認可幼稚園・保育所をいかに議論に巻き込むか
- 急がない（広島県～平成26年度からの取組）
- 検討会議のメンバー構成
- 「自然保育」をはじめとする言葉の使い方、定義
～ 「自然保育」＝「放任保育」という印象
ただし「しぜん保育」は分かりにくい
～ 検討会議の名称も「仮称」のまま

14

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

6 認証制度の概要

保育等の内容	・ 保育所保育指針、幼稚園教育要領又は幼保連携型認定こども園教育・保育要領を尊重し、子供の状況や発達過程を踏まえた教育・保育活動を行うこと。
自然体験活動	・ 3歳以上の子供について、屋外を中心とした自然体験活動の時間が、平均して週10時間以上となっていること。 ・ 園の活動方針や指導計画等に、自然体験活動に関する事項を入れ、計画的に実施すること。
屋外での活動場所	・ 屋外での自然体験活動に使用できる場所（自然フィールド）が園庭以外にあり、季節や天候に応じて様々な自然体験活動ができること。
安全確保	・ 屋外で子供の体験活動を行う際は、十分な安全管理に配慮した保育者の配置体制をとっていること。 ・ 屋外で子供の体験活動を行う際の安全管理マニュアルを作成していること。かつ、保育者と保護者に周知していること。
研修（質の担保）	・ 自然保育を行う上で有効であると考えられる外部の研修等の場に参加した常勤の保育者がいること。 ・ 保育者は、幼児の教育・保育を行う上で有効であると考えられる研修（一部の保育者がこれらの研修を受講し、当該保育者か他の保育者及び管理者に研修内容を伝達するものを含む。）を年1回以上受講すること。

15

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について

7 今後の課題

- 庁内関係課との連携（定住促進担当、中山間対策担当 等）
- 県内市町との連携
- 認可幼稚園・保育所の巻き込み
- 一過性に終わらない効果的な事業展開

(ただし来年度以降の執行体制は検討が必要)

16

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について



17

ひろしま自然保育認証制度の創設に向けた検討について



18

広島県の出会い・結婚支援「みんなで
おせっかい!『こいのわ』プロジェクト」
の取組にインスパイアされた映画が
今秋公開されます。

11月18日以降に全国順次公開です
ので、ぜひご覧ください。



19